

都市再生整備計画(第4回変更)

う た づ り ん か い ち く
宇多津臨海地区

香川県 宇多津町

令和3年3月

事業名	確認
都市構造再編集集中支援事業	<input type="checkbox"/>
都市再生整備計画事業	<input type="checkbox"/>
まちなかウォークアブル推進事業	<input checked="" type="checkbox"/>

都市再生整備計画の目標及び計画期間

都道府県名	香川県	市町村名	宇多津町	地区名	宇多津臨海地区	面積	185 ha
計画期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度	交付期間	平成 30 年度 ~ 令和 4 年度				

目標

- 大目標 コンパクトで賑わい・活気に満ち溢れた楽しめる市街地形成を図る。
 目標1 宇多津臨海公園を核とした交流拠点及び周辺整備を実施し、新都市における賑わいの再生を目指す。
 目標2 訪れた人が徒歩や自転車で街を周遊しやすい環境づくりを目指す。

目標設定の根拠

まちづくりの経緯及び現況

宇多津町は、香川県のほぼ中央に位置する人口約18千人の県内で最も狭い町であるが、室町時代には將軍足利義満の側近細川頼之公のもと四国の政治・経済の中心地として栄え、古くは28ヶ寺が建立されていたところである。今も旧町内には、四国八十八ヶ寺霊場の一つ郷照寺をはじめとした1社9ヶ寺や町家など、往時を偲ばせる古い町並みが残っている。
 また、古くより全国屈指の塩のまちとして栄えてきたが、昭和47年の製塩業廃止に伴い、塩田跡地では土地区画整理事業による新都市の整備が進められてきた。区画整理完了後は、一気に都市化が進み、近代的な街が形成されることとなった。
 そのようなまちづくりを背景に、旧町内では昔ながらの風情ある街並み、新都市では新しい住宅・商業・工業地が並ぶたつの顔をもつ町として成長してきた。しかし、その成長の過程の違いから、旧町内と新都市を繋ぐルートの整備が未熟であり、相互の行き来が盛んとは言い難い状況にある。

近年において旧町内では、人口減少、高齢化、空き地の増加等による町の空洞化が進み、新都市においても景気低迷などにより土地の利活用が進まず、店舗などが軒を連ねていたエリアにおいても空き地や空き店舗が増加し、宇多津臨海公園を中心とした集客ゾーンへの来訪者が減少しており、まちの賑わいを取り戻すべく官民連携による取り組みが求められてきた。

そうした中、平成17年度から平成21年度（第1期）、平成22年度から平成26年度（第2期）、平成27年度から平成31年度（第3期）の3期に渡り都市再生整備計画事業（旧まちづくり交付金）を活用し、道路・歩行者専用道路・公園・広場の再整備や古民家再生、高質空間（道路）のネットワーク化を実施するとともに、町独自のソフト事業も実施し、その結果多くの住民や利用者が満足し、活用されるだけでなく、住民の自発的なアダプト活動や再整備された道路等と調和した自宅の改修が進むなど、顕著な成果をあげてきた。これらの事業により、旧町内では事業投資効果が一定程度現れ、住民の機運も高まっている。

一方、新都市では臨海公園を中心とした集客ゾーンへの来訪者は増加しているものの、未だ賑わいを取り戻すには至っていない。また、都市の回遊性が未熟であり、公共交通を用いて訪れた来訪者が徒歩や自転車で快適に周遊できる環境が整備できていない。さらに、新都市における公衆トイレのバリアフリー化等も進んでおらず、障害者の方が安心して新都市を観光・周遊できない状況である。

町全体を見渡すと、旧町内には寺社等の歴史・文化的資源、新都市には観光施設があり、それぞれの地域では各種イベントが催されているが、それらの資源相互の連携や回遊性が弱く、町全体として豊富な地域資源の魅力が十分に活かされていない状況にある。

課題

- ・新都市における賑わいの再生に向けて、町内外から人を呼び込むことが重要である。そのために都市の核となる施設整備が必要である。
- ・新都市と旧町内の相互連携により、都市全体の魅力向上を図る必要があるが、徒歩、自転車による都市の回遊性が未熟であり、いつでも快適に回遊・散策できる環境整備が必要である。
- ・上記2点のハード面における課題解決をはかるとともに、賑わいを再生させるためにはその街の魅力を発信することが効果的である。そのため、観光周遊するためのガイドとなる情報を作成し、積極的に発信する必要がある。

将来ビジョン（中長期）

- ・宇多津町総合計画（平成26年3月）では、『元氣創造！これからも自立する宇多津』を将来像とし、「住民の自立と参画による地域コミュニティのあるまち」「生涯健康でいきいきと活躍できるまち」「地域の特性を活かした個性と活力あふれるまち」「安心して暮らせ、人材が育つまち」を目指している。その実現に向けた主要施策として、「新宇多津都市の活性化及び周辺地域との連携」「JR宇多津駅周辺の機能強化」「良好な都市型住宅の整備促進」「新宇多津都市でのコミュニティ組織の形成」などを掲げている。中でも「地域資源を活かした観光振興」では、新都市・旧町内の資源相互の連携や回遊性が弱い課題に対し、「活かす」「繋ぐ」「巡る」視点から散策コースづくりを基本方針としている。
- ・宇多津町まち・ひと・しごと創生総合戦略（平成27年10月）では、『元氣創造！これからも自立する宇多津』を将来像とし、「地域資源を活かした雇用・産業の創出」「交流とまちの魅力づくりによる人の流れの創出」「結婚・出産・子育て・教育を全力でサポート」「コンパクトさを活かした便利で安全・安心・健康に暮らせるまち」を目指している。その実現に向けて、「定住に向けた環境整備」「若者が集まる環境の充実」「新宇多津都市の面的活性化（水族館誘致促進）」「災害等への備えの強化」「地域コミュニティの場の提供」などを掲げている。

目標を定量化する指標

指 標	単 位	定 義	目標と指標及び目標値の関連性	従前値	基準年度	目標値	目標年度
集客数	人／月	宇多津臨海公園内の産業資料館への来場者数	宇多津臨海公園を賑わい再生の核と位置づけており、公園内の一施設である産業資料館の来場者数をもって評価する。	14,855	平成28年度	17,800	令和4年度
来訪者数	人／日	地区の交通結節拠点である、JR宇多津駅の乗降客数	周遊しやすい環境づくりを目標としており、周遊の起終点となるべき駅の乗降客数をもって評価する。	4,518	平成28年度	4,985	令和4年度
満足度	5段階	「公園・緑地の整備」、「観光の振興」、「市街地の整備」、「道路・交通網の充実」の4項目における満足度の平均値（満足している1⇔5不満である）	賑わいのある市街地形成を大目標として掲げており、住民の観光に対する満足度をもって評価する。	2.55	平成25年度	1.96	令和4年度

都市再生整備計画の整備方針等

計画区域の整備方針	方針に合致する主要な事業
<p>整備方針①【宇多津臨海公園を核とした交流拠点及び周辺整備を実施し、新都市における賑わいの再生を目指す。】 水族館を核とした、まちの観光・交流の拠点にふさわしい魅力ある公園整備を行い、新都市の賑わいの再生を目指す。併せて、交差点改良や駐車場整備を行い、来訪者の利便性と安全性を確保する。</p>	<p>【基幹事業】 道路：宇多津臨海公園線、宇多津港公園線、宇多津駅公園線、県道川津丸亀線 公園：宇多津臨海公園、宇多津臨海公園(1号緑地)、宇多津臨海公園(2号緑地)、宇多津2号公園 高質空間形成施設(緑化施設等)：宇多津駅公園線、宇多津港公園線 【関連事業】 四国水族館整備</p>
<p>整備方針②【訪れた人が徒歩や自転車ですぐ街を周遊しやすい環境づくりを目指す。】 緑化等による良質な道路景観形成、歩いて楽しくなる歩道の演出、ベンチ等の休憩空間づくりなどにより、新都市における回遊性を高める。併せて本計画区域内の周遊はもとより、現在都市再生整備計画事業をしている宇多津地区への流入を促進していくため、経由地にある公園の公衆トイレのバリアフリー化を行う。</p>	<p>【基幹事業】 高質空間形成施設(緑化施設等)：宇多津駅公園線、新宇多津南第3号線、新宇多津南第10号線、新宇多津南第49号線 高質空間形成施設(バリアフリー対応トイレ等)：宇多津中央公園、宇多津1号公園、宇多津3号公園、宇多津5号公園、宇多津6号公園 【提案事業】 地域創造支援事業：休憩施設等整備事業 まちづくり活動推進事業：新都市ガイドブック作成事業</p>
<p>その他</p>	
<p>○まちづくり活動の継承、支援、展開 毎年の恒例事業として定着している「歩天UTAZU桜おどり」、「大収穫祭」、「アロハナイト」などのイベントの運営・参加者をまちづくりの担い手のひとりと考え、まちの活性化を次代に継承していく基盤づくりに取り組む。また、都市の活性化に伴い、新たな魅力あるイベントづくりを推進していく。</p> <p>○情報発信 観光・交流に関する情報発信を行う。また、実施に当たっては、住民との協働により情報の作成・発信を行う。</p>	

都市再生整備計画の区域

宇多津臨海地区(香川県宇多津町)	面積	185 ha	区域	宇多津町浜一番丁から浜九番丁
------------------	----	--------	----	----------------

